

Title	W・ H・ ホスフォード 第十七世紀の囲墻に関する一目睹者の報告
Sub Title	W.H. Hosford, "An eye-witness's account of a seventeenth-century enclosure
Author	渡邊, 国広
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.11 (1952. 11) ,p.813(75)- 814(76)
JaLC DOI	10.14991/001.19521101-0075
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521101-0075">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521101-0075</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ル、絹織物、薄手の毛織物、皮製品、紙、マイル、煉瓦、武器、火薬等の製造に堪能な人々であり、厄介な關入者と呼ばれ、手強い競争者と看做され一部から敵視されながらも、とにかく亡命した先々において經濟的發展に貢獻するところ大であつた。

海を越えて逃避した新教徒の場合も幸いにしてノーリッチ、コルチエスター、サザンプトン、カンターベリー、メードストンの各都市を始め、ドーヴァー、サンドウィッチ、ヘスチングス、ロムニー、ハイスの五要港に居住することを許された。優秀な技術の持ち主であつたこれ等の亡命者は上述した諸都市のいづれに對しても重大な影響を及ぼしたが、果して亡命新教徒が演じた役割には實際如何なるものがあつたというのであるか。特にケント州メードストーンの場合は如何。

一五六七年六月にメードストーン市長は亡命新教徒の招聘を申し出た。そして特にセイ「サージ」、モカドラー「安物のビロード」、グログレイン「カムレット」「粗織の布」、ヤルツセル「縞子の一種」の製造者・ディアパー「縞織のリンネル布」、綾織やリンネルの布、袋布、スタメット「毛織物の一種」、ベイ「上等な薄手の毛織物」、フリサドラー「少しも知られていない上質もの」、フランダーズの毛織物、羽根入の敷蒲團を包む丈夫な布、アラス織の壁掛や綴織の掛布の織工・眞鍮細工師・スペイン草、フランダーズの壘、鋪瓦や煉瓦、白色の上質紙や褐色の粗紙、婦人用胴着や頭巾及びあらゆる種類の武器や火薬の製法に經驗ある者「一般の利益のために必要でも有用でもあるが、そこら

では知られていない多くの他の技術や知識」を持つ人々を希望して來た。かくしてロンドンに一先ず落着いた者のうちから使用人を含め一世帯最高十二人を越えない三十家族が許されて早くも一五六八年にはメードストーンに來住し、主として東フランダーズのニール、デインズ、ガンの出身者であつたこれ等の技術者は一五八五年には四十三家族百十五人に増加し、ウィク街を中心として旺盛な經濟活動に従事していたのであつた。來住者の大部分はメードストーンにおいても毛織物や絹織物の製造者であつた。袋布、ベイ、グログレインが一五六八年には既にメードストーンの定期市において小賣され、又一五六九年にはグログレイン、モカドラー、袋布、毛織物がこの都市において實際に生産されるようになっていた。これ等は新型の織物として知られたが、市場において販賣される前に亡命者の間から任命された検査官の審査を受けなければならない規定があり、その手数料として袋布一反に附いて一片、大幅の毛織物、グログレイン各一反に付き四片、ベイ一反に附いて同じく四片の割合で業者から徴收された金額の全部がその儘この都市の有力な財源となり、従つて財政的收入の面に對する寄與においてこれ等の亡命者が果たした役割は相當に大であつたと見なければならぬであらう。

これ等の亡命者の影響は然し單に經濟的な面において認められたというだけではなかつた。優秀な技術者として最初から尊重されて住居の保證をすら得ていたこれ等の亡命者は同時に有

能な教師となりこの都市の人々のための技術指導に當らなければならなかつたし、又熟練を要しない仕事に對しては貧困者を充當することが強要されていた。かくして來住者は「紡がせたり他の仕事に使つたりしたことのために貧乏な人々にとつて非常な助けとなり」怠惰をかなり除いたり遠ざけたりしている」のであつた。「大人しくて有爲な外國人」はかくしてこの都市の氣風の刷新に貢獻し、曩の財政面における寄與と並んでかかる面に對する影響も見出し難い役割の一つというべきであらう。

亡命者はメードストーンにおいてかくも勢力があつたが、ケント州に來住した織物業者がジェイム一世の壓迫から國外に退散するに及んでメードストーンの新教徒も再度の移住を餘儀なくされた。かくして從來迄亡命者の掌握するところであつた織物生産はこの都市に居住する「王國生れの臣民」の手に移つて行つたが、亡命者の下において習得した未熟な技術を以てしてはその維持も困難な程であつて、織物生産の主要な部分は一六二〇年迄には完全に没落してしまつていた。但し「外國生れやその子弟」を含めても當時僅かに二十三人に過ぎなかつたという殘留者の大部分がメードストーンの縞織生産を依然として獨占し、熟練を要しない仕事に土着の人々を使用した以外は生産の實際面に直接關係していたから、メードストーンの縞織生産においてこれ等の外國人が果していた役割は相當に根強く、メードストーンの縞織が「オランダ人の品物」と呼ばれたのも決して偶然なことではなかつたのであつた。(渡邊國廣)

W・H・ホスフォード

『第十七世紀の圍牆に關する「目撃者の報告」』  
〔W. H. Hoistord, "An Eye-Witness's Account of a Seventeenth-Century Enclosure,"  
Economic History Review, Second Series,  
Vol. IV, No. 2, 1951, pp. 215-220〕

圍牆に關しては當事者の書いた記録が残つていない。幸い發見された「目撃者の報告」に依つてケイソープ(イングラント東部の一村)における圍牆の實情を知ることが出來たが、貴重なこの記録の發見は、第十八世紀において寧ろ普通に見られた牧羊のため以外の圍牆の非常に早い實例を傳えているという意味においても正に有意義な發見であつたのである。

圍牆を懸念に主張したのは「主だつた自由土地保有者」であつた。即ち「苦勞や負擔、それと耕作に依る農業の方法に纏わる他の酷い苦痛を嫌がつて、又は主として自分等の土地を改良しようという期待から」圍牆を煽動したのであり、「強力で反對するための金銭も勇氣も持たなかつた」中以下の結局これに追従する以外になかつた。自分等が「家族を扶養することが出來たのは單に農園や小屋に依つたばかりでなく、勞働や存分にあつた仕事にも依つたが、圍牆のためこの仕事も一緒に暮す楽しみもなくなるに違ひない」反對者のかかる酷い落膽にも拘わらず「計畫を遂行するためあらゆる面でも恵まれた」主張者に

依つてとにかく圍牆は進められて行つた。

圍牆に際しては然し領主の同意を得る必要があつた。若い領主は圍牆が不利なことから斷然これに反對した。圍牆を主張する一方の側は領主のこの態度に憤慨し、その早急な解決のため提訴した。ところが「裁判官達は一方には金錢を以て他方には勇氣があるためこれが自分等の利用し得る一仕事に値すると思ひ、一度の公判で始末しない方が寧ろ得策と考へ、敢て兩者を喚びて辯を續けさせ、訴訟を却下した場合が自分等にとつて多少とも歩のある仕事たり得ると見た。圍牆の主張者は意外に嵩む裁判の費用に驚き、圍牆を必ずしも喜ばない者に對して迄も必要な経費の一切を分擔させることにした。勿論これには反對者もあり、圍牆を主張する側は探偵を派遣して違犯者を監視し、又不同意者を恐喝して服従せしめ、如何なる手段に訴えても圍牆を實行しようと試みたのであつた。

「すべてが終つてしまつて後は最早や生き永らえることも難いであろう」。圍牆に對して頑迷なかかる態度を示した領主も然し遂には屈服し「改良は他の所領において一般的である程非常に大きくはないであろうが、改良はとにかく改良であろう」として圍牆に同意して呉れた。圍牆を主張した側は「諍が起つて計畫を邪魔することない」と見て取るや「直ちに溝を堀り、垣を植えて實行に乗り出したが、然し「神にも、平等や正義に關する最も神聖な神の掟にも相談せず、自分等の智慧や裁判官達の助言に信頼したから」、「非常な混亂となるばかりでなく除くに

も犠牲の多い障碍をこの人々の前途に横たえるため神は峻烈にして苛酷な判決を下し給うた」感がないわけでもなく、例えは領主の急死に依つて意志の疏通が阻まれたため一時混亂に陥つたというようなこともあつたが、全般的に見てケイソープにおいては圍牆が大した困難もなしに進められ、圍牆を強行した上層の間における致富には特に大なるものがあつたのである。

然し中層の者が勝手なこの圍牆に依つて消滅も免れなかつたという事實は更になかつた。圍牆の行なわれた最中においてもこの階層に屬する人々は、財政の窮乏に乗じて嘗て舊領主から買入れた大きくはない土地を依然として維持し続け、このためケイソープにおいては「小さな自由保有地がこれぐら多い場所はない」といわれた舊い證言がその儘通用する程であつたのである。但し下層の貧農は灌木地帯が圍牆されたため残つた最後の牧場を失つたばかりでなく、必要な薪炭を獲得することすら困難となり、圍牆の負擔をその一身に引受けて貧困の度を愈々深める結果となつてしまつたのであつた。

圍牆に依る影響は從つて各階層において必ずしも一様ではなかつた。少數の一部は圍牆に依つてなるほど不幸な結果に陥つたが、これに反し失職の不安から圍牆を最も嫌つた小土地の自由保有者には何の影響もなく、圍牆が終つて後も依然としてその地位を維持し続け、寧ろ増勢の傾向をさえ示していたのであつた。

(渡邊國廣)

編集後記

世に平和を願わぬものはないが、今日、米ソ二大陣營對立のうちに分れた「二つの平和」が、「冷たい戦争」という憂慮すべき絆によつて、とりもたれていくことは、皮肉というより、餘りにも惨な平和と云わねばならぬ。そして將來に明るい希望の扉を閉じ、前途に一抹の不安を感じているのは、決して少數の人々ではあるまい。英國に芽生え、米國の地に深くその根を下し、今日益々成長、發展の途上にある近代經濟學と、他方のマルクス經濟學との交流、乃至對決。經濟學にこれ程の大問題もまたないであろう。それに眞正面から四つに組み、その解決の努力に全生涯を投じた經濟學者、一橋大學教授杉本榮一先生が、去る九月二十四日狭心症にて急逝された。この「二つの經濟學」は未解決のまま、先生五十一歳の生涯を終えられたのである。

慶應義塾にとつて、杉本先生ほど關係の深かつた經濟學者も少いであろう。三田に日吉に度々講演に來塾され、塾生にとつても、最も親しみの多かつたことと信じている。去る七月四、五の兩日、本塾で開かれた日本統計學會に來塾されたのが最後となつた。當時、にこやかに微笑んで居られた御姿は、いままお眼前に彷彿し、その時の記念寫眞を手にしては、一しお尊敬と懐しみの念にかられるのである。先生の一橋大學葬に、塾の關係者一同と參列し、衷心御冥福を祈つたのである。

(安川正彬)

昭和二十七年十月二十五日印刷	昭和二十七年十一月一日發行
第四十五卷	定價 七拾圓
第十一號	送料 四圓
東京都港區芝三田慶大經濟學部内 發行所 高村象平	東京都港區芝三田慶大町八 印刷所 圖書印刷株式會社 川口芳太郎
豫約購讀料	一年分 金八四〇圓(送料共)
	半々年分 金四二〇圓
發行所 東京都港區芝三田二丁目 慶應義塾大學經濟學部研究室内 慶應義塾經濟學會	